

このページでは、日本生協連出版部発行の『CO・OP navi』「東日本大震災・復興レポート」と、日本生協連 HP「復興支援ポータルサイト」から一部記事を抜粋し、紹介いたします。

CO・OP
navi

コープさっぽろ 生活支援ボランティア



ボランティアから自主的な活動も始まりました。バザーもその一つです。



バザー会場では、北海道大学学生によるチャリティーコンサートも開催。

北海道札幌市には、東日本大震災により避難してこられた方が多く生活されています。そうした中、避難された方の役に立ちたいという声が組合員の中から上がり、「コープ生活支援ボランティア“きずな”」が立ち上がりました。

“きずな”の役割は、避難されている方と支援するボランティアをつなぐことです。ボランティアは、“きずな”が提示するボランティア活動メニューの中から支援に協力できそうなものを選び、登録します。“きずな”は、それを基に支援要請と合うボランティアを探し、派遣します。支援メニューは多岐に渡り、子ども教室や荷物整理、引っ越し補助や物資移動運搬、地域案内や高齢者への対応、車の運転などが挙げられます。こうした活動は大変喜ばれ、最近では、“きずな”の支援を受けた方から「相談にのってほしい」と、直接お電話をいただくこともあるそうです。

コープさっぽろでは、“きずな”の活動のほかにも、組合員からの募金を活用し、避難している高校生全員に支援金を支給したり、道内の被災者支援団体に助成金を送ったりしています。組織本部基金事務局長の稲垣一雄さんは、「被災された人、支援する人、地域の団体の方々と『考え合う』関係性を築きながら、長期的な支援を行なっていきたいと思います」と話していました。

復興支援
ポータルサイト

おかやまコープ 「絆コンサート」開催

3月19日、おかやまコープでは、特定非営利活動法人 AMDA(アムダ)と共催し、「東日本大震災 絆コンサート」を開きました。

このコンサートは、AMDAが岩手県大槌町の県立大槌高校の吹奏楽部を招いて開催したものです。地元岡山の就実中学・高校吹奏楽部も友情出演しました。会場に詰め掛けた350人の聴衆は、高校生が奏でる“音の絆”に魅了され、被災地へと思いを寄せていました。



就実中学・高校吹奏楽部より大槌高校へ横断幕のプレゼント。

復興支援
ポータルサイト

フクシマフーズ(株) 「いつも応援をありがとうございます」

フクシマフーズ(株)は、「CO・OP 炊きたての味 おいしいご飯」を製造しています。震災直後は、電気・ガス・水道などのライフラインがストップし、工場設備の一部が被災しました。現在は設備もすべて復旧し、通常の製造体制に戻っています。従業員は、「全国の組合員さんから応援をいただき大変感謝しています。買い物に行った生協のお店で当社を応援するポスターを見たときはとても励みになりました。工場は、全国の生協さんからご注文いただいたおかげでフル生産となっています。これからも安心・安全でおいしい商品を、心を込めて製造してまいります」と話していました。



これからも、おいしいご飯をお届けします。